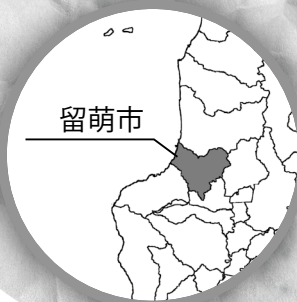


人口減少・地方創生プロジェクト

創生総合戦略の策定に向けた「地方創生るもい市民会議」を開催し、地域創生のための取り組みが本格的に始動しました。



減少し続ける人口

国勢調査の数値を基に、市の人口【図表1】をみると、1965年の40,231人をピークに減少傾向が続き、2010年には24,457人、457人となっています。これを1965年のピークと比較すると45年間で15,774人、39・2%減少しています。

と、年少人口(0～14歳)が11,128人から2,751人となり、75・2%減少しています。

一方、老年人口(65歳以上)は、1,947人から6,899人となり、約3・5倍に増加しており、総人口に対する老年人口の構成比も4・8%から28・2%と急激に増加しています。

1996年以降、年少人口と老年人口が逆転し、年少人口が老年人口

を下回る状況が続いています。

生産年齢人口(15～64歳)についても、27,156人から14,807人、45・4%減少しています。

さらに、市の出生・死亡、転入・転出の推移【図表2】をみると、1968年以降、市内への転入者が市外への転出者を下回っており、社会増減数(転入－転出)において、減少状況に入ったことを示しています。

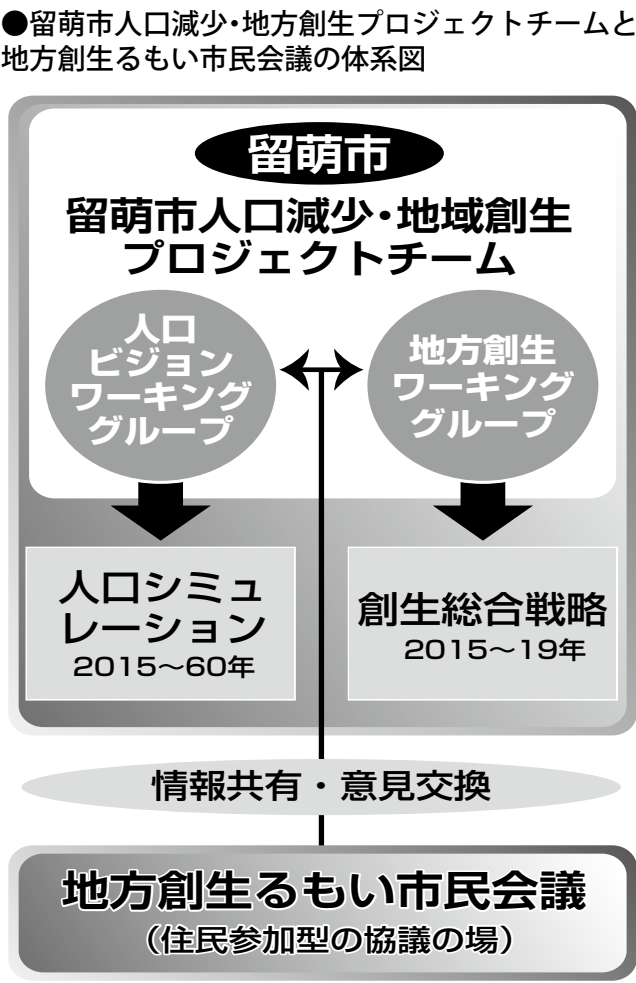
また、2003年以降、出生数が死亡数を下回っており、自然増減数(出生－死亡)においても減少状況

に入ったことを示しています。

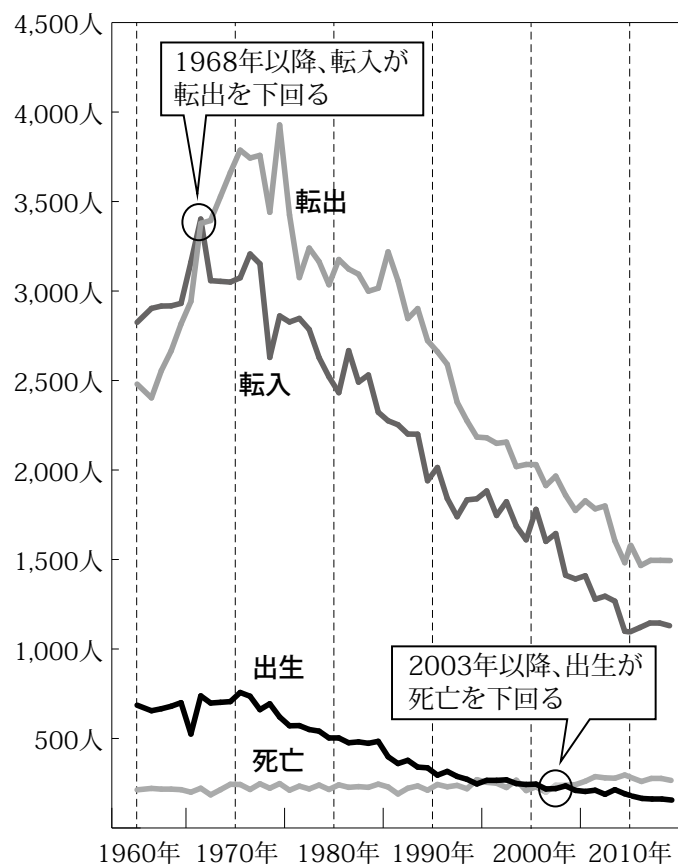
市の人口減少の大きな要因としては、基幹産業である漁業や水産加工業の衰退、国鉄羽幌線の廃止と国鉄民営化による人員整理、日本電信電話公社民営化による電話交換業務の廃止、国や道の出先機関の統廃合が進んだことなどが考えられます。

地方創生るもい市民会議が本格的に始動

市は、市民参加型の協議の場として設置した第1回目の地方創生るもい市民会議を1月30日(金)に開催し、

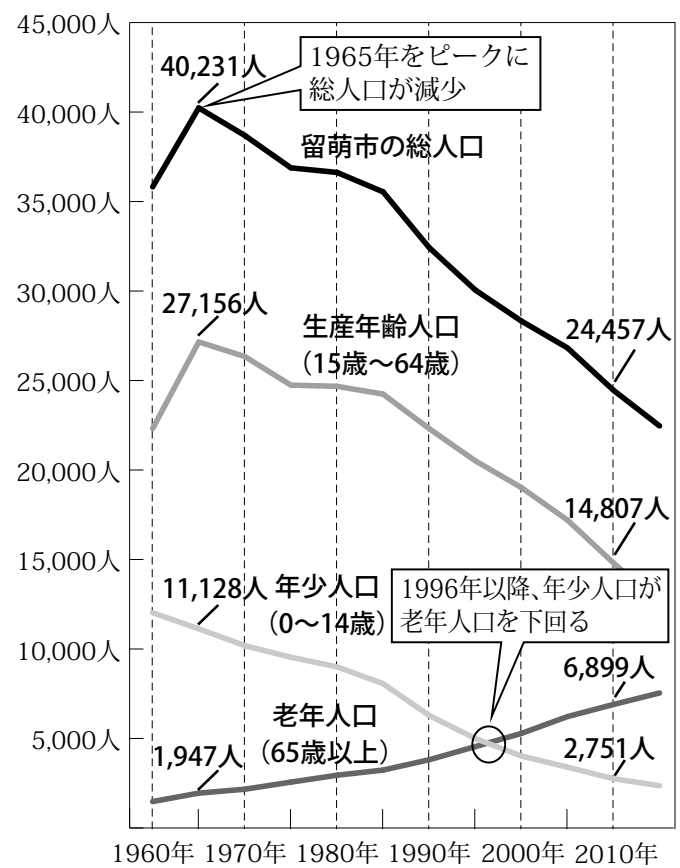


●図表2 留萌市の出生・死亡、転入・転出の推移



※留萌市統計書により作成

●図表1 留萌市の総人口と年齢3区分別人口の推移



※国勢調査により作成

公募により選出された市民および市内の各団体から選出された市民15人に委嘱状を交付しました。

座長を互選により選出したあと、市の人口の現状分析などを報告し、国の人口ビジョンおよび創生総合戦略の内容について説明しました。

意見交換では、市の将来に向けたマチづくりについての課題やそれらを解決・推進するための方向性などの意見が多く出され、参加者全員が市の人口の流出と減少に対して危機感を持って臨むとともに、地方創生るもい市民会議の役割について認識を共有しました。

今後、地方創生るもい市民会議は昨年12月1日に設置した留萌市人口減少・地域創生プロジェクトチームやそれぞれのワーキンググループと連携し、創生総合戦略の策定に向けた議論を進めていきます。

地域創生に関する市の取り組みについては、市ホームページ (<http://www.e-rumoi.jp/>) をご覧ください。

■お問い合わせは
政策調整課 ☎42-1809
<http://www.e-rumoi.jp/>



▶市の将来について議論を進める「地方創生るもい市民会議」